前回の課題文章につけられた吹き出しコメントを読んだ。→はい　いいえ　未返却　読めない\*

＊スマートフォンやタブレットでは、吹き出しコメントが表示されない場合があります。その場合はパソコンで確認してください。

前回の模範文章を読んだ。→はい　いいえ

（当てはまる回答だけを残してください。評価には含めません。指導の参考にします。）

【第８回】

《ふみ付き》は利用するべきではない

―不公平と画一性の観点から―

1A193008

アンダーランド　ジェイク

　稲田インテリジェンス社の文章診断AI《ふみづき》は大学におけるレポート評価に利用するべきではない。本レポートでは、なぜ《ふみづき》を大学におけるレポート評価に利用すべきでないかを、《ふみづき》を利用することの問題点を指摘することで説明する。

　まず、《ふみづき》による評価は不公平である。稲田インテリジェンス（2019）は、《ふみづき》は「先輩のレポートとの類似度によって」（p.7）レポートの評価を決定し、「過去のAレポートとの類似度が低」（p.8）ければ低いほど評価も下がると説明している。これは、生徒のレポートの良し悪しが、他のレポートとの比較により決定されることを意味する。つまり、独自性の高いレポートや工夫の凝らしたレポートを書く生徒が、レポートの内容の良し悪しに関係なく、より低い評価を得る確率が高くなってしまう。このような評価方法は生徒のレポートを公平に評価しているとは言えない。

　次に、《ふみづき》をレポート評価に利用することは、生徒が画一的な文章を書くことを促す。前の段落で触れたように、《ふみづき》はレポートの良し悪しを「先輩のレポートとの類似度」(p.7)に基づいて審査する。そうすると、生徒の方では先輩の書いたレポートの内、高評価であったものを参考にし、それを模倣して書くインセンティブが生じる。しかし、そうすると皆が同じような文章を書くようになり、レポートの内容が画一的になってしまう。

　以上より、《ふみづき》は公平性に問題があり、また画一的な文章の作成を促すため、大学におけるレポート評価に利用するべきではない。

参考文献

稲田インテリジェンス（2019）「弊社の文章診断AI《ふみづき》活用の御提案―大学におけるレポート評価のために―」『馬場大学報』夏号、馬場大学出版会、pp. 7-8

作業１　本論の各パラグラフの最初の文（トピック・センテンス）に下線を引きましょう。

作業２　下線を引いた文を続けて読みましょう。全体の要旨になっていますか。ずれていたら直しましょう。

コメント欄

しっかりと指示に従って文章を作成しました。時間をかけてじっくりと見直し、今までの学習内容もしっかりと反映できたつもりです。前回指摘を受けた部分は特に気をつけました。

マックコンピュータでダッシュを打つ方法を教えてください。

評価のポイントと評価点　　　　　　　　　　　　　　　　　指導員（　大崎　健一　）

6／6点　①参考文献のキーワード（キーセンテンス）が引用されて論じられており、出典が明記されている。

5／5点　②本論がパラグラフ・ライティングになっている。

・パラグラフ全体を統括する文がパラグラフの最初に置かれている。

・パラグラフに違う要素が入っていない。

・トピック・センテンスをつなぎ合わせると全体の要旨になっている。

1／1点　③主題と副題からなる題がつけられている。

1.5／2点　④第1回から第7回までに学習した内容が反映されている。

1／1点　⑤コメント欄を使い、自分の文章作成について指導員とコミュニケーションをはかっている。

15点満点

〔　15 点中　14.5点繰り上げ　15　点〕